



徳川美術館 名品コレクション展示

令和5年6月20日(火)～9月24日(日)

展示期間 A:6/20(火)～7/17(月・祝) B:7/19(水)～8/20(日) C:8/22(火)～9/24(日)

【第1展示室】

凡例：◎は重要文化財を示します。

武家のシンボル - 武具・刀剣 -

No.	指定名	称	作者・所用者・所蔵者・寄贈者など	時代	世紀	期間
1		朱塗啄木系威具足	春田吉次・加藤彦十郎作 徳川義直(尾張家初代)所用	江戸		寛永3年<1626>
2		葵紋蒔絵糸巻太刀拵	越前松平家伝来	江戸	18	A B
3		梨子地糸巻太刀拵		江戸	18	C
4		輪宝文金銀泥軍扇	徳川義直(尾張家初代)所用	江戸	17	A
5		白鳩・龍図軍扇	徳川義直(尾張家初代)所用	江戸	17	B
6		輪宝文金銀泥軍扇	徳川義直(尾張家初代)所用	江戸	17	C
7		三団子形馬標(関ヶ原合戦時使用)	松平忠吉(家康4男)・徳川義直(尾張家初代)所用	桃山	16	
8		青貝柄槍拵 附 黒塗銅鐺・鞘 五本		江戸	18-19	
9		葵紋蒔絵細太刀拵	徳川治行(尾張家9代宗睦嫡子)所用	江戸	19	A
10		葵紋兵庫鎖太刀拵	徳川宗春(尾張家7代)・宗睦(同家9代)所用	江戸	18	B C
11		蠟色塗刀拵	徳川義礼(尾張家18代)所用	江戸	19	A B
12		蠟色塗脇指拵	徳川義礼(尾張家18代)所用	江戸	19	A B
13		青貝微塵塗刀拵	安千代(尾張家14代慶勝6男)所用	江戸	19	C
14		青貝微塵塗脇指拵	安千代(尾張家14代慶勝6男)所用	江戸	19	C
15		太刀 銘 光忠 守家造 駿府御分物	加藤清正・徳川家康所持	鎌倉	13	
16	◎	刀 銘 本作長義・・・(以下58字略)	北条氏直・長尾頭長・徳川綱誠(尾張家3代)所持	南北朝	14	
17		脇指 無銘 西蓮	國分家寄贈 徳川秀忠・森川重俊所持	室町	16	
18		短刀 銘 筑州住国弘作 正平十二年二月日	徳川家康・徳川義直(尾張家初代)・光友(同家2代)・綱誠(同家3代)所持	南北朝		正平12年<1357>
19		本阿弥光温折紙 明暦三年九月三日 (No.15附属)		江戸		明暦3年<1657>
20		泰心院様御部屋住當御代御腰物元下帳		江戸	18	

【第1展示室の見どころ - 具足飾り -】

大名の甲冑は、一軍を指揮する大将の威厳を示す着用品である。武家の長としての威厳と品格に満ち、贅を尽くし技術の粋を集めて、はた目にも美しく見えるように作られた。展示室入口正面の展示ケースは、名古屋城二之丸御殿の御夜居之間で毎年正月十一日に行われた、「具足飾り」の飾り付けに基づいて展示している。「具足飾り」とは甲冑を飾り、その年の武運を祈願する尾張徳川家の年中行事である。甲冑の向かって右手には「馬標」が掲げられている。「馬標」は陣中や戦場において、大将の居所を示すしるしであった。また、甲冑の後ろに掲げられた葵紋付きの大きな旗は「馬標」と同じ役目があり、「纏」と呼ばれている。

特集展示「徳川家康」

徳川美術館の収蔵品の骨格となる徳川家康(1542～1616)の遺産(駿府御分物)は、江戸時代を通じて尾張徳川家第一の什宝として大切に守り伝えられた。武具・茶の湯道具・文房具・書籍など、多岐にわたる遺産は戦国武将の中でも群を抜く質・量を誇っている。また、家康が日常的に使用した道具や着用した衣服の他、国宝・重要文化財に指定された名品などが徳川美術館に伝わる。令和5年は、これら家康ゆかりの品を1年を通じて名品コレクション第1展示室にて紹介する。

21		関ヶ原合戦絵巻 四巻の内	田安德川家伝来	江戸	19	
22		火縄銃 六匁筒 人物面(アポロ)・唐草文象嵌	伝徳川家康所用	ヨーロッパ インド	16-17	
23		水牛葵紋蒔絵口薬入	伝徳川家康所用	江戸	17-18	
24		金唐革長胴乱 附 早合・口薬入・セセリ	伝徳川家康所用	江戸	17	
25		葵紋散蒔絵螺鈿胴薬入 附 藍菖蒲革玉袋	伝徳川家康所用	江戸	17	